

M13b

ようこう SXT、SOHO EIT と $H\alpha$ コロナグラフの同時観測によるプロミネンス突然消失の解析

殿岡英顕、松元亮治、宮路茂樹(千葉大学)、S.F. Martin (Helio Research)、R.C. Canfield (Montana State U.)、柴田一成(京都大学)、A. McAllister (HAO)、K. Reardon (Osservatorio Astronomico di Capodimonte)

我々は Hawaii Univ. の Mees Solar Observatory の $H\alpha$ コロナグラフで観測されたプロミネンス突然消失 (disparition brusque) の 1994 年までのデータを用い、それらを eruptive prominence, quasi-eruptive prominence, disappearing prominence, の 3 つの型に分類してきた。99 年春季年会では、代表的な 1992 年 4 月 4 日の Eruptive prominence イベントでプロミネンスの下にカスプ状の軟 X 線ループ構造があり、カスプ構造がプロミネンスの直下まで伸びている事を報告し、 $H\alpha$ コロナグラフと軟 X 線での同時観測において空間構造の関連を示した。

同観測所の 1997,1998 年のデータをサーベイしたところ、1998 年に eruptive prominence に分類されるプロミネンス上昇イベントが 4 例みつけた。今回は、これらのイベントとようこうによる軟 X 線と SOHO による極紫外線での同時観測による解析を行った。これらのイベントでは、全てのイベントでようこう SXT での同時観測があり、一部のイベントで SOHO EIT による同時観測があることを確認した。また、ようこう SXT による観測では全てのイベントでその前後に付近の軟 X 線構造に変化があることを確認した。

発表ではこれらのイベントの解析結果と、今まで行っていた 1994 年までのイベントの解析結果との比較、考察を行う。